

令和元年度 租税教育に関する研究発表要項

亘理町立逢隈中学校

教諭 都澤 智洋

1 研究主題

『税を通して、支えられている社会を実感させるための授業実践の工夫』
～震災前，震災直後，現在の亘理町の収入を比較させることを通して～
～亘理町立逢隈中学校の校内研究実践を通して～

2 主題設定の理由

未曾有の災害である東日本大震災が起こってから8年が過ぎた。現在中学3年生の生徒は当時小学1年生にあたり，記憶は全くないわけではないが，どのような災害であり，どのように復興を果たしてきたかの理解はあいまいな部分が多いだろうと予想される。

本研究では，震災直後の写真から当時の被害の大きさを知り，現在の写真から復興の進み具合を確認させる。また，震災前，震災直後，そして現在の亘理町の収入を知ることにより，震災の復興に向けて，国からの国庫支出金や地方交付税交付金が大きな役割を果たしたことを理解させ，税によって助けられたのだということを実感させたい。

また，本研究を逢隈中学校の校内研究の一環ととらえ直し，1時間の授業の中で生徒にとってより深い理解になる手立てを探っていく。

本研究の実践により，税の大切さ，納税の大切さを実感させられ，将来責任感のある納税者へと成長できるようになると考え，本主題を設定した。

3 研究目標

税を通して，支えられている社会に生きていることを実感させる。

4 研究仮説

- (1) 震災直後の写真と現在の写真を比較することにより，復興の進み具合が確認できるであろう。
- (2) 震災前，震災直後，現在の亘理町の収入を比較することによって，私たちは税によって支えられている社会に生きていることを実感できるであろう。
- (3) 国庫支出金や地方交付税交付金などの意味を知ることにより，より身近に税をとらえ，考えることが深まるだろう。

5 研究方法

- (1) 震災前（平成22年度），震災直後（平成24年度），震災後（平成29年度）の亙理町の収入のグラフを excel を使って作成させる。その際，町の収入，国庫支出金，地方交付税交付金，県費の4つに特化して着目させる。（ICT活用教育）
 - (2) 震災直後の写真，復興した写真を見比べさせ，その変容と今支えられていることを実感させる。
 - (3) 国庫支出金や地方交付税交付金は，地方自治体のための国の支出であることを理解させる。
 - (4) 国の収入の一部に生徒自身も負担している消費税があることを理解させ，自分たちの生活も税と深く関わっていることを理解させる。
- 以上4点を主なねらいとして，逢隈中学校の校内研究とからめて授業実践を行っていく。

6 研究計画（平成30年度）

8月 租税教室座談会

9月 税に関する実態調査の実施

11月 研究のまとめ，発表

12月 授業実践

※税に関する学習は2学期末から3学期始めに行われる予定になっており，教科書の指導計画に則って計画を立てた。

7 研究の概要

- (1) 税に関する実態調査の結果（平成30年度3年1組，33名中30名実施）

- 1) 皆さんの身の周りにある，税金が使われているものを答えられますか。

できる（ 26 人） できない（ 2 人）

- 2) 1)で『できる』と答えた人に質問します。それは具体的には何か，思いつくものを全て答えなさい。（○の中の数字は人数）

建物，旗，教科書⑩，学校②，公園，道路⑨，パトカー，救急車③，学校の物④，交通整備，自動車に関する税金，刑務所の人たちへのご飯，公務員の給料④，建物の建設，公共の物，公園②，歩道橋，公共施設，福祉，消防④，警察③，信号②，医療費，病院，ゴミ収集，年金，車，

- 3) 税金は必要だと思いますか。

必要だ（ 27 人） 必要ない（ 1 人）

- 4) 3)で『必要ない』と答えた人に質問します。なぜそう思いますか。思いつく理由を全て答えなさい。

高い税金によって，長く乗ってきた車を手放すことになるから。

(2) アンケートの考察

- ・ほとんどの生徒が税金が使われているものに関しては答えられていた。
- ・税金が使われているものに関しては、学校や消防、警察など身近なものにとどまり、多方面での理解にはなっていない。
- ・ほとんどの生徒が税金の必要性を理解していた。
- ・『税金は必要ない』と答えた生徒の答えは自動車税に限ったものであり、広く税金の使い途を理解できているわけではない。

8 指導と評価の計画（5時間扱い 本時5／5）

節 時	学習内容	評価の観点				評価規準	評価方法
		関	考	技	知		
4 節 政 府 の 役 割 と 国 民 の 福 祉	1 1 私たちの生活と財政 ・国や地方自治体はどのような経済活動を行っているか理解する。 ・税金の制度はどうあるべきか考える。		○	○		・財政の内容を理解し、租税制度がどうあるべきか考察できる。	・ワークシート (個別学習, グループ学習) ・発言 ・メモ書き
	1 2 政府の役割と財政の課題 ・市場経済において、政府はどのような役割を果たしているか理解する。		○		○	・政府の財政が市場経済にどのような影響を与えているか理解できる。	・ワークシート (個別学習, グループ学習) ・発言 ・メモ書き
	1 3 社会保障の仕組み ・社会保障とは何かを理解し、日本の社会保障制度がどのようなになっているか把握する。	○	○			・日本の社会保障制度がどのようなになっているか興味関心を持ち説明できる。	・ワークシート (個別学習, グループ学習) ・発言 ・メモ書き
	1 4 少子高齢化と財政 ・少子高齢化は日本の財政にどのような影響を世帯に与えるか理解できる。 ・社会保障と財政の在り方について考える。		○		○	・少子高齢化と財政、社会保障の問題点を理解し、説明できる。	・ワークシート (個別学習, グループ学習) ・発言 ・メモ書き
	1 5 亘理町の財政の変化（本時） ・震災の復興に多額の税が使われたことを考察できる。 ・税の大切さについて説明できる。		○	○		・グラフから亘理町の復興に多くの税が使われていたことを読み取り、税の大切さについて説明できる。	・ワークシート (個別学習, ペア学習) ・発言 ・メモ書き

※評価の観点について

学習指導要領に示されている社会科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価する。「十分満足できる」状況と判断されるものをA、「おおむね満足できる」状況と判断されるものをB、「努力を要する」状況と判断されるものをCとする。学期末や学年末の評定は、この観点別評価に照らして行われるものとする。

- ・関…社会的事象への関心・意欲・態度。

社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追求し、より良い社会を考え自覚を持って責任を果たそうとする。

- ・考…社会的な思考・判断・表現。

社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

- ・技…資料活用の技能。

社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。

- ・知…社会的事象についての知識・理解。

社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身に付けている。

9 本時の指導

(1) 本時の目標

亘理町の復興に多くの税が使われていたことを読み取り、税の大切さについて説明できる力を身に付けさせる。

(2) 本時の指導に当たって

①校内研究の視点

《校内研究主題》

学ぶ喜びを実感し、自分の考えを進んで表現する生徒の育成
～ともに学び合う学習活動の自校化を通して～

3 学年社会科では、普段の授業から研究のねらいに迫るために個別学習（主体的な活動）、グループ学習（対話的な活動）、一斉授業（理解の深化）のメリハリをしっかりと持たせている。今回の授業実践は場所が教室ではなくパソコン室になるだけでなく、対話的な学習もグループではなくペアになる。環境が変わっても、授業のねらいをはじめに明確化することによって生徒が「分かる喜び」を味わえるような援助を実践していきたい。

②学力向上に向けた5つの提言の視点

「自分の考えをノートにしっかり書かせること。」

導入時に提示する震災時の写真と復興後の写真を見比べて考えたこと、亘理町の財政の変化をグラフ化したときにどう思ったかということを文章化させることにより、理解の深化を図る。

「授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。」

終末時に授業の振り返りをまとめる時間を設け、まとめさせる。ねらいを達成できた生徒を机間指導によって把握し、その生徒に発表させることにより、理解の深化を図る。

(3) 指導過程

別紙

(4) 評価基準（評価規準に到達できたかどうかの基準）

評価項目（B）	十分満足できる（A）	努力を要する生徒（C）への手立て
税の大切さについて理解できる。	税という手段でもって私たちは助け、助けられていることを実感でき、説明できる。	亘理町が復興できたのも、日本全国から集められた税金によるものであることを説明する。

(5) 準備物

○生徒：ファイル、ワークシート、筆記用具

○教師：ワークシート、写真資料、excel ソフト（データ）

(6) 板書計画

◎震災から亘理町が復興できたのはなぜだろう					○復興の背景を探ろう
写真	写真	写真	写真		

(3) 指導過程

段階	主な学習活動と生徒の反応	指導上の留意点	準備物・評価 (方法)
導入 (15)	1 震災直後の写真を見せる。 - 感想をワークシートにまとめる。 - 何名かに発表させる。 2 同じ場所の復興が進んだ現在の写真を見せる。 - 感想をワークシートにまとめる。 - 何名かに発表させる。	1 その写真がどこの写真なのか、簡単に補足説明する。 - 身近に感じさせる。 2 どのくらい時間がかかったのか補足説明する。 - 復興の大変さを実感させる。	写真 ワークシート配布 自分の考えを率直にまとめられたか〔態度・技能〕
展開 (25)	復興が進んだ背景には何があったのだろう。 3 復興にはいったいどのくらいお金がかかったのだろう。 - 自由に予想させる。 4 そのお金は全て亘理町だけでまかなったのだろうか - 自由に予想させる。 5 どれほどのお金がかかったかグラフで明確にさせる。 - excelシートに数値を入力していく。 6 完成したグラフを見て、感想を発表させる。	3 約1100億円のお金がかかった。 - どのような内訳かは説明しない。 - 震災前の亘理町が町税として集めた額は3億円程度であったことを説明。 4 どのような内訳か予想させる。 5 生徒のパソコンを俯瞰し、数値が間違えている生徒にはその都度助言する。 6 国庫支出金と地方行成交付金の違いを確認する。	復興にどれほどのお金がかかったか、予想できたか〔思考・技能〕 数値表配布 グラフを作成できたか〔技能〕 復興には多くの税金が使われたことに気付いたか〔知識・理解〕
終末	7 授業の振り返り	7 「税を納める」とはどのような	多くの税金が復興に使われたこ

(20)	・復興の背景に何があったか考えさせる。 ・何名かに発表させる。	ことなのか，考えさせる。	とを知り，納税の大切さに気付いたか（知識・理解）
------	--	--------------	--------------------------

ワークシート

～巨理町の復興の背景にあったのは何だろう～

（１）震災直後の写真を見て考えたことは何かまとめよう。

（２）復興した写真を見て，考えたことは何かまとめよう。

(3) グラフを作成し終えて考えたこと何かまとめよう。

(4) 「税を納める」とはどういう意味があるのか、今日の授業を通して考えたことをまとめよう。

組 番 氏名

令和元年度 租税教育に関する研究発表

亶理町立逢隈中学校

教諭 都澤 智洋

1 研究主題

『税を通して、支えられている社会を
実感させるための授業実践の工夫』

～震災前，震災直後，現在の亶理町の収入を比較させる
ことを通して～

～亶理町立逢隈中学校の校内研究実践を通して～

2 主題設定の理由

震災前，震災直後，そして現在の亘理町の収入を知れば，
→震災の復興に向けて，国からの国庫支出金や地方交付税交付金
が大きな役割を果たしたことを理解できる。
→税によって助けられたのだということを実感できる

本研究を逢隈中学校の校内研究の一環ととらえれば，
→1時間の授業の中で生徒にとってより深い理解になる
手立てを探ることができる。

3 研究目標

税を通して，支えられている社会に
生きていることを実感させる。

4 研究仮説

- (1) 震災直後の写真と現在の写真を比較することにより、復興の進み具合が確認できるであろう
- (2) 震災前，震災直後，現在の亘理町の収入を比較することによって，私たちは税によって支えられている社会に生きていることを実感できるであろう。
- (3) 国庫支出金や地方交付税交付金などの意味を知ることにより，より身近に税をとらえ，考えることが深まるだろう。

5 研究方法

(1) 震災前（H22），震災直後（H24），震災後（H29）の亘理町の収入をグラフ化させる。

その際，町の収入，国庫支出金，地方交付税交付金，県費に特化して着目させる。

(2) 震災直後の写真，復興した写真を見比べさせ，その変容と今支えられていることを実感させる。

(3) 国庫支出金や地方交付税交付金は，地方自治体のための国の支出であることを再度理解させる。

(4) 国の収入の一部に生徒自身も負担している消費税があることを理解させ，自分たちの生活も税と深く関わっていることを理解させる。

(5) 以上4点を主なねらいとして、
逢隈中学校の校内研究とからめ
て授業実践を行っていく。

6 研究計画（平成30年度）

8月 租税教室座談会

9月 税に関する実態調査の実施

11月 研究のまとめ，発表

2月 授業実践

※税に関する学習は2学期末から3学期始め
に行われる予定になっており，教科の指導
計画に則って計画を立てた。

7 研究の概要

(1) 税に関する実態調査の結果(平成30年度3年1組, 33名中30名実施) 回

1) 皆さんの身の周りにある, 税金が使われているものを答えられますか。 回

できる(26 人) できない(2 人) 回

2) 1)で『できる』と答えた人に質問します。それは具体的には何か, 思いつくものを全て答えなさい。 回

建物, 旗, 教科書⑩, 学校②, 公園, 道路⑨, パトカー, 救急車③, 学校の物④, 交通整備, 自動車に関する税金, 刑務所の人たちへのご飯, 公務員の給料④, 建物の建設, 公共の物, 公園②, 歩道橋, 公共施設, 福祉, 消防④, 警察③, 信号②, 医療費, 病院, ゴミ収集, 年金, 車,

3) 税金は必要だと思いますか。 回

必要だ(27 人) 必要ない(1 人) 回

4) 3)で『必要ない』と答えた人に質問します。なぜそう思いますか。思いつく理由を全て答えなさい。 回

高い税金によって, 長く乗ってきた車を手放すことになるから。

(2) アンケートの考察 回

- ・ほとんどの生徒が税金が使われているものに関しては答えられていた。 回
- ・税金が使われているものに関しては, 学校や消防, 警察など身近なものにとどまり, 多方面での理解にはなっていない。 回
- ・ほとんどの生徒が税金の必要性を理解していた。 回
- ・『税金は必要ない』と答えた生徒の答えは自動車税に限ったものであり, 広く税金の使い途を理解できているわけではない。 回

8 指導の計画(5時間扱い 本時5/5)

第4章 私たちの暮らしと経済

第4節 政府の役割と国民の福祉

- 1 私たちの生活と財政
- 2 政府の役割と財政の課題
- 3 社会保障の仕組み
- 4 少子高齢化と財政
- 5 本時の指導

9 本時の指導

(1) 本時の目標

亘理町の復興に多くの税が使われていたことを読み取り、
税の大切さについて説明できる力を身に付けさせる。

(2) 本時の指導にあたって

①校内研究の視点

《校内研究主題》

学ぶ喜びを実感し、自分の考えを進んで表現する生徒の育成
～ともに学び合う学習活動の自校化を通して～

②学力向上に向けた5つの提言の視点

「自分の考えをノートにしっかり書かせること。」

「授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用
問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。」

(3) 指導過程 別紙

(4) 評価基準（評価規準に到達できたかどうかの基準）

A, B, Cの基準を設定し、全ての生徒がねらいを達成
できる手段を考えた。

10, 授業実践 ～導入～



生徒の感想 1

租税教室振り返りシート

1, 東日本大震災で被災したばかりの様子を見て, どのように思いましたか?

かれまがたくさんあって、津波の威力で1階部分のガラスが割れていて、津波のひどさを物語っている。

2, 復興した写真を見て, どのように思いましたか?

かれまなどで埋まっていた校舎が、すごくきれいになっているけれど、周りにあった建物などがほとんど無くなってしまっているのが寂しいと思った。

生徒の感想 2

租税教室振り返りシート

1, 東日本大震災で被災したばかりの様子を見て, どのように思いましたか?

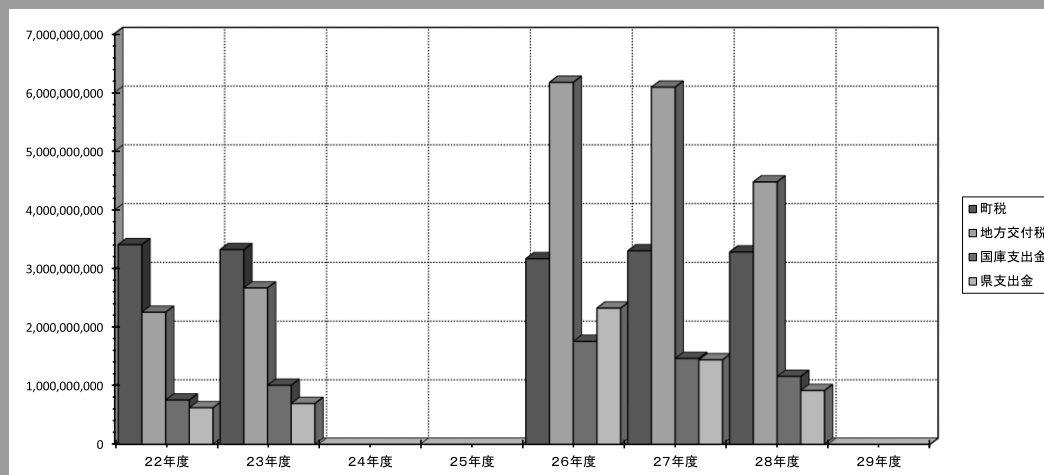
津波で流された木がたたくさんあって津波の強さがわかりました。
学校の建物は強いと思った。
みんな中も残っている

2, 復興した写真を見て, どのように思いましたか?

震災での教訓を生かして1階部分に教室をなくしていることは大事だと思った。また、もう戻らないかと思うくらいのかれまがあったのに一つもなくて復興におどろいた。

10, 授業実践 ～展開～

24, 25, 29年度が空欄になるとこんなグラフになります



このデータをパソコンの画面に映します

◎東日本大震災前後に見る亘理町財政状況の変化について

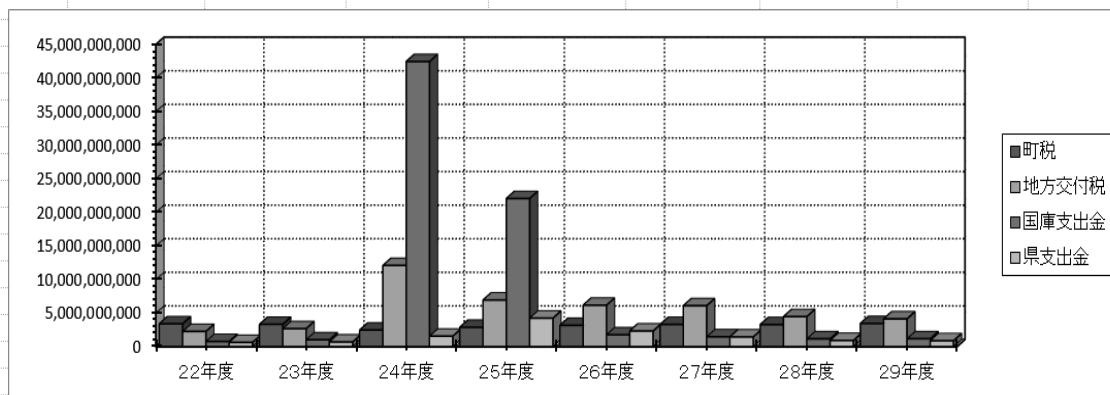
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
町税	3,406,662,000	3,321,466,000			3,167,332,000	3,301,404,000	3,281,719,000	
地方交付税	2,256,000,000	2,670,000,000			6,169,964,000	6,086,511,000	4,474,115,000	
国庫支出金	759,379,000	1,011,599,000			1,760,343,000	1,469,176,000	1,163,965,000	
県支出金	626,290,000	699,980,000			2,326,658,000	1,446,218,000	921,253,000	

下のデータは紙ベースで生徒に渡し、上のデータに入力させます。

◎東日本大震災前後に見る亘理町財政状況の変化について

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
町税	3,406,662,000	3,321,466,000	2,461,738,000	2,874,223,000	3,167,332,000	3,301,404,000	3,281,719,000	3,436,867,000
地方交付税	2,256,000,000	2,670,000,000	12,079,617,000	6,930,455,000	6,169,964,000	6,086,511,000	4,474,115,000	4,134,767,000
国庫支出金	759,379,000	1,011,599,000	42,435,407,000	22,054,066,000	1,760,343,000	1,469,176,000	1,163,965,000	1,168,887,000
県支出金	626,290,000	699,980,000	1,558,204,000	4,248,174,000	2,326,658,000	1,446,218,000	921,253,000	887,397,000

これが完成形です。24、25年度がいかに突出しているかが分かります。



国庫支出金…震災前 7 億 6 千万円，震災当初 4 2 4 億 3 5 0 0 万円，昨年度 1 1 億 7 千万円
 地方交付税交付金…震災前 2 2 億 5 6 0 0 万円，震災当初 1 2 0 億 8 0 0 0 万円，昨年度 4 1 億 3 5 0 0 万円
 県支出金…震災前 6 億 2 6 0 0 万円，震災当初 1 5 億 6 0 0 0 万円，昨年度 8 億 8 7 0 0 万円

授業の様子

一生懸命数字を打ち込んでいます。

震災から、亘理町が復興できつつあるのは、なぜだろう。
復興の背景を探ろう

授業のねらいをホワイトボードに示します。





感想をまとめています。逢限中の生徒は本当にまじめです。

10, 授業実践 ～まとめ～

生徒の感想 1

4, 巨理町の財政変化のグラフを作成してみて、気付いたことは何ですか？

震災前は国庫支出金という項目に99だったけど、震災後は1番多くなっている。(7億6千万円→424億3500万円)

5, 「税」の果たす役割って何だろう。なぜ「納税」は「義務」なのだろう。

何か大きな災害などで建物や道路が壊れてしまい直す時、復興する時に使うため、納税をしておかないとすぐに対応することができなくなってしまうから、納税が義務づけられているのではないかと思った。

生徒の感想 2

4, 亶理町の財政変化のグラフを作成してみて、気付いたことは何ですか？

震災が起きてから国から出されたお金がきわめて高い。

男子

5, 「税」の果たす役割って何だろう。なぜ「納税」は「義務」なのだろう。

みんながいのちの被害に備えて、違う県だから知らなくてけなく、
日本全体で助け合っていくため税を払うらしい、日本がよりよい
暮らしをできるようにしている。
次の世代のためにも。

11, 研究のまとめ

- (1) 1 単位授業時間の中での有意義な研究にならないものかと考え、実践してみた。資料を集めたり、生徒が取り組みやすく、分かりやすい内容にするための準備は大変だったが、生徒の真剣に取り組む様子を見て、充実感を得ることができた。
- (2) 亶理町の過去、そして現在の財政面での状況を捉えさせることにより、税が私たちの生活に役立っていることを実感させることができた。
- (3) 何のために税を納めなくてはならないかを、震災の復興を通して一人一人に考えさせることができた。
- (4) 理解を深めさせる手段として「比較」を使ったが、有効だった。時代を超えた予算の比較などしてみてもおもしろいと思った。

